

第10号

発行 加古川市教育委員会
編集 加古川市文化財審議委員会
加古川市加古川町北在家
23の1 TEL (24) 1151

石造文化財の調査 その2

前号でお知らせしました、文化財審議委員による石造文化財の調査について、その後の調査状況を概略お知らせします。

加古川駅舎前に、竜山石製の立派な道標があります。これは元から今の場所にあったものではなく、もう少し南で旧山陽道のところにあったものでしょう。

光念寺には、松岡青羅、玉屑、可大などの句碑がのこされています。

称名寺には、台風でくずれていますが、花崗岩製の立派な層塔があり、内庭には室町初期といわれている竜山石製の石幢があります。その他この寺には、山門を入ってすぐに目通り周囲3m59cmの太さのものを筆頭に、3本のいちょうの大木があります。このいちょうは、元禄時代にすでに「目通り2尺」の記録があり、相当年代を経たものと思われ、市内でも相当古くからの木ではないかと思われます。

加古川町平野には「胴切れの地蔵」としての伝説がのこり、住民の信仰をあつめている石仏があり、竜泉寺に竜山石製のものに、花崗岩製の水輪を組み合わせた五輪塔があります。おそらく南北朝頃のものでしょう。

大野の常楽寺墓地には、正和4年の銘があり、文勸慈母塔といわれる花崗岩製の宝塔(写真一県の重要文化財)や五輪塔など多数の石造遺物があります。

播磨の法隆寺として知られる刀田山鶴林寺には、県の重要文化財に指定され、暦応2年の銘がある花崗岩製の宝篋印塔があります。また、時代は新しく明和8年に造られたものですが、その規模なり姿においては全国的にも数少ない遺例といわれる、一石一字の経塚があります。

その他境内には、松岡青羅などの句碑があります。

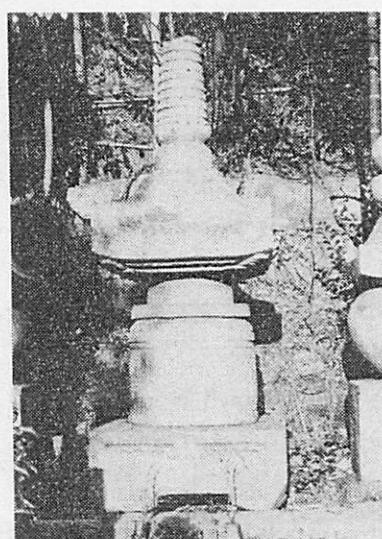
北備後の福林寺には、竜山石製の石幢と共に、南北朝時代(貞治2年)の五輪塔(竜山石製)があります。

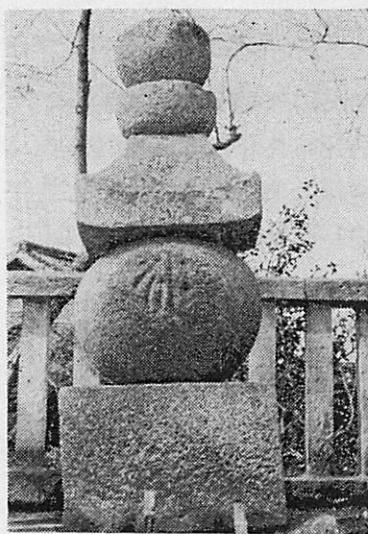
稻屋の福田寺には、花崗岩製で正和2年の銘がある層塔があり、四方仏は、三面に石仏が彫られ、一面は梵字が彫られています。

木村の如意寺には、竜山石製の石幢(室町初期)があります。この石幢は、泊神社の神宮寺が焼けた時に、この寺へ持てこられたものといわれます。また、泊神社には、宮本伊織寄進の灯籠(承応2年)があり、この神社の本殿も宮本伊織が寄進したものといわれ、立派な棟札がのこされています。

尾上町今福には、竜山石製で文和2年の銘がある五輪塔があり、養田には立派な石棺仏が祠られています。浜手地方では唯一の石棺仏でしょう。

尾上神社には、安永7年の道標がのこされて





五輪塔 教信上人廟

れおり、別府ゴルフセンター前の八幡社境内にも、花崗岩製の立派な五輪塔があります。

宝蔵寺境内には、オリーブの大木が2本あり、品種はクイーンとミッショーンで、兵庫県におけるオリーブ栽培の種木であります。

野口町坂元の旧国道沿いには、和泉式部の塔といわれる花崗岩製の立派な宝篋印塔が、完全な姿でのこされています。

教信寺には、教信上人廟として祠られる花崗岩製の五輪塔（写真）の他に、家型石棺の蓋が3基あり、古様の宝篋印塔や五輪塔の部分がたくさんあります。秀吉の野口城攻めの時に、教信寺も戦火にかかりましたが、これらバラバ

います。

池田の観音寺には、室町初期といわれるすっきりした形の石幢があります。スラッシュとして非常に美しい姿をしています。

別府町新野辺には、空、風輪を欠いていますが、花崗岩製の五輪塔がのこさ

ラになっている古様の五輪塔なども、当時の戦火にかかったものであろうと思われます。

水足の墓地にも、教信寺の周囲から掘り出されたといわれる宝篋印塔が1基あります。また、水足の墓地と、北野の公民館前には、「寸倍石」と呼ばれ、弁慶にまつわる伝説ものこされている石があります。

古大内の墓地には立派な五輪塔があり、長砂の墓地にも、地輪を欠いてはおりますが、大型の立派な五輪塔がのこされ、円長寺には聖陵山古墳から掘り出されたと思われる、組み合わせ式石棺材があります。

平岡町新在家では、竜山石製のみごとな五輪塔があり、横蔵寺墓地と境内には石棺があります。

土山の墓地に寄せ集めと思われますが、花崗岩製の立派な宝篋印塔があります。

一色の安養寺境内にも、小振りながら立派な宝篋印塔が、花崗岩製、竜山石製それぞれ1基づつあり、竜山石製の方には、永正14年の銘があります。その他この寺には、一石五輪や小型の古様の五輪がたくさん集められています。

以上、その後の調査状況を略記いたしましたが、総じて国道2号線より南の方は、石造遺品は少ないようで、遺されている遺物は、材質的には花崗岩製のものが多いようです。

平荘町の文化財をたずねて

—市内文化財踏査—

2月13日に行なった市内文化財踏査は、平荘町内の石造遺物を中心に、文化財教室生29名の参加者を得て、約10kmの道のりを5時間かけて歩き、身近な文化財について認識をあらたにしました。

当日午前9時、駅前のバス営業所に集合、あいにく小雨が降ったりやんだりしていましたが、参加者全員が雨具の用意をしていたので決行と決め、バスに乗り込んで一路平荘町へと向いました。

最初の目的地である八ツ仏及び八ツ仏古墳に

近い一本松で降車、その場でオリエンテーション



山裾を行く参加者



報恩寺の五輪塔群

ンを行ない、スタートを切りました。

八ツ仏は石棺の蓋に八座の仏を刻み込んだ石棺仏で、既にNHKテレビにも紹介されただけあって、スケールは一流であり、今だに地元の根強い信仰を集めています。

次に小畠の長楽寺では、住職長山実道氏に繩かけのついた石棺の蓋（石棺仏、六ツ仏）や石棺及び古墳等についての説明を聞き、その後、神木の石棺仏、五輪塔を見学し、山角の報恩寺へと歩を進めました。

石造遺物の宝庫といわれているだけに、県指定重要文化財の十三重層塔を初め五輪塔などあらゆる石造物が並んでいて、その質や量、種類には参加者一同改めて驚いたのであります。

その後、市内で数少ない板碑を求めて、平之荘神社に立ち寄り、平荘小学校において、雨にぬれた身体をストーブで乾かしながら持参の弁当を楽しく食べ、午前中の疲れを一気にふっとばし、午後のコースに対しての銳気を養いました。

降り続く雨の中、予定通り出発し、養老の宝篋印塔や数々の石棺を見たのち、西山の板碑へと足を向けました。道中において、中学生からの鋭い質問があい次いでとびだし、係員を困らせたことが度々あります。西山大塚、西山1号墳に立ち寄る予定でしたが、足もとが悪いため

遠くから眺めるだけにし、里山条の観音堂へと歩を進め、石棺等を見学したのち、池尻の地蔵寺へと向いました。

地蔵寺内には地蔵寺古墳があり、石室内へ入って内部を見ましたが、大きな切石で石室が組まれており、壁面が非常に整った特徴ある古墳です。山の中腹の墓地まで足を延ばした甲斐があって、たくさんの遺物を見ることができました。雨足が一段と強くなりましたが、目指すはあと一ヶ所と皆がんばり、最後の予定地の益氣神社裏へと力強く足を運び、大きな五輪塔や宝塔の見学を最後に今日の予定を全部終了いたしました。

降りしきる雨のバス停で一日の反省をした中で、最もよく出た意見は「市内に文化財を守る会とか、文化財を調査する会が存在していない。」ということでした。この日の参加者を中心として、加古川市の文化財を守る会の誕生する日が遠くないことを確信しています。

最後に、祖先が遺してくれた文化財を大切に保存し、子孫に伝承していくことこそ、現代に生きる私達に課せられた義務であると思いまます。どうか市民一人ひとりが、それぞれの立場で文化財保護にご協力くださいますよう願ってやみません。



雨中の見学 地蔵寺

県下の文化財見学会

加古川市教育委員会が開いている『文化財教室』の日程にしたがい、県下の文化財を見学する会をもちましたが、その時の様子を簡単に報告いたします。

3月5日、加古川駅前をマイクロバスに29名の参加者を乗せて出発。

国道2号線を通り、姫路より姫新線沿いに179号線を走り、10時に最初の目的地、兵庫県

の最西端にある佐用郡上月町の上月町民俗資料館（写真）を訪ねました。

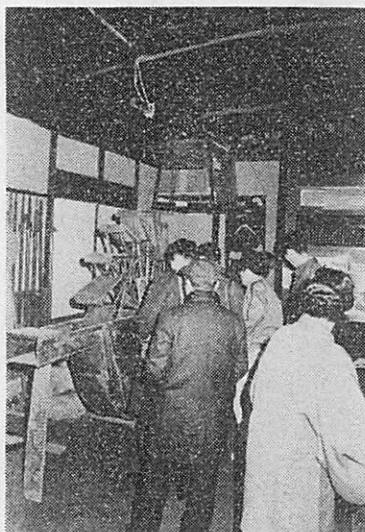
姫新線上月駅の西北徒歩5分の所にある民俗資料館の建物は、この地の一般的な農家を移築したもので、館内には町内で収集した数多くの民俗資料を展示しています。囲炉などがあり、加古川ではあまり味わえなくなった茅葺農家の雰囲気を満喫しました。1月～3月の寒い期間の休祭日（不定期）にこの地方の特産であった手漉和紙（原料一楮）の実演をし、漉き上がった紙を一般に販売していました。

約1時間の見学の後、南光町より県内で一番美しい川と云われている千種川沿いにのぼり、山を越えて、宍粟郡山崎町で昼食をとる。

1時半安富町皆河にある重要文化財の古井家住宅を訪ねました。

古井家は日本有数の古民家で室町末ないし桃山頃の建築とみなされており、昭和45年に解体修復工事が行なわれ、創建当時の姿に復元されています。茅葺屋根の軒は低く、室内は暗い。柱は刃に丸みのある鉤（ちょうな）で仕上げてあります。

日曜日のため我々一行以外にも見学者があり、まだ家財道具が



香寺民俗資料館の内部



上月町民俗資料館

置かれている室内は狭く、人いきれでむんむんしていました。隣接地には新居のほか休憩所も建築中で、3月中旬に移転するらしい。

山里の天気は変わりやすく、このころから雪がちらつきだし、あらためて加古川より山奥の感を深くしました。

30分で見学を終え、古墳と見まちがえそうな山崎断層のケルンバットを横に見ながら、夢前町前之庄を抜け、福崎町にある世界的な民俗学者柳田国男先生の生家をバスの中より見学した後、市川沿いに少し下り、播但線香呂駅近くの財団法人香寺民俗資料館（写真）へ着いたのは4時でした。

建物は船津町御立の商家の一部を移築したもので、館内には所狭しと近畿各地の資料が展示されていました。

季節の上では春とはいえ、時々雪がちらつき、冷たい風の吹く一日でしたが、参加者一同楽しく、そして有意義な見学会を終えて、無事に加古川へ着いたのは5時を少し過ぎた頃がありました。

していた土器、石器、冑、刀剣等の武具など多數の考古資料を展示いたしております。

なお、都合により開館日を下記のように決めて、一般公開しておりますので、お間違のないようお願いします。

開館日 每月22日

3月は21日～23日

11月は1日～5日

開館時間 10時～16時

考古資料館ご案内

加古川市教育委員会では、鶴林寺本堂西の旧宝物館を借用して、市立考古資料館として開館し、市内の各遺跡より出土した考古資料を展示して、一般に公開しておりますが、その後、整理をすませた資料を追加展示しておりますので、一度足をお運びいただきてご覧いただきたいたいと思います。

私たちの祖先が、日常の生活用具として使用